

まちの中の“いい話”

— 子育て応援！リコー光学編 —

花巻市大畑にあるリコー光学は、社員が安心して子どもを育てることができるよう、会社ぐるみで応援しています。その応援とは、小学生以下の子どもを持つ社員については残業を免除する、育児休業は女性社員も男性社員も平等に取得できるなどで、会社として子育てを支援する行動計画を立てて、社員が子育てと仕事を両立できるように取り組んでいるのです。

「法律に基づいて計画を立て、それを実行しているだけです。社員一人ひとりが望むライフスタイルを尊重して、生活も仕事もしやすくするのは、会社の役割ですから」と総務部長の平賀靖春さん。



リコー光学
千田剛彦さん

男性社員の中で初めて育児休業を取得した総務部の千田剛彦さんは、「自分たちが計画したのだから、実際に使ってみようと思って取得しました。期間は2週間でしたが、子どもを育てる楽しさと大変さを実感しました。いい経験になりました。周りの理解と応援があったから、取得できたのだと思います。」と話していました。

こんなふうに、子育てにやさしい会社が増えていくといいですね。

- リコー光学株式会社…従業員536名(男403名、女133名) 特殊レンズ「マイクロレンズアレイ」の世界トップシェアを誇る企業。昨年、岩手県内で初めて次世代育成支援対策推進法に基づく基準適合一般事業主として認定された。
- 次世代育成対策推進法…次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備のために、国、地方公共団体、事業主が、それぞれの果たすべき役割等を定めた法律。平成17年4月から施行。

知っていますか？DVのこと

デートDV ～被害・加害を生まないために～

花巻市DV防止について考えるセミナーの講師を務められた植田朱美さんにデートDVについて伺いました。

■デートDVとはどのようなものですか？

簡単に言うと、恋人間で起こる様々な暴力(身体的、経済的、心理的、性的)のことを言います。例えば、メールをチェックするなどの行為も心理的暴力と言えます。

■デートDVの被害状況は？

デートDVは「恋人を自分だけのものにしたい」という気持ちが高じて起こることが多く、最悪の場合、殺傷事件をひきおこしてしまいます。岩手県内でも、性的暴力による中学生の妊娠や高校生の傷害、17歳女性の殺害事件が実際に起きていて、非常に深刻な状況です。

■デートDVの防止策は？

まず“束縛は愛ではない”ことをしっかり伝えておく必要があります。そしてイヤなことは「イヤ」と言える力やお互いを尊重する関係を築く力を身につけさせるために、小さい頃から「自己肯定感」や「自尊感情」といった「自分を大切にできる心」を育てあげることが大切です。

■被害にあったら？

DVは専門家による支援がなければ解決し難い問題です。どうぞ私が所属している「もりおか女性センター(☎019-604-3304)」や行政、警察等の相談窓口を利用してください。



※花巻市内の相談窓口は下記のとおりです。

DVセミナーで“デートDV”の劇を演じた、雫石高校保健委員会の皆さん

DV相談窓口 (花巻市内)

※男性も女性も相談できます。

●配偶者暴力相談支援センター

◆岩手県県南広域振興局
花巻総合支局保健福祉環境部(花巻市花城町1-41)
月～金 8:30～17:00 ☎0198-22-4921

●警察(岩手県警)

◆花巻警察署生活安全課 ☎0198-23-0110
身の危険を感じたら……迷わず**110番**

●花巻市役所

◆健康こども部こども課(新館1階)＜女性相談＞
月～金 9:00～16:00 ☎0198-24-2111 (内線507・517)

◆政策推進部市民協働・男女参画推進課(本庁舎2階)
月～金 8:30～17:30 ☎0198-22-2217 (相談専用電話)

発行 花巻市政策推進部市民協働・男女参画推進課

〒025-8601 花巻市花城町9番30号
TEL 0198-24-2111(内線420)
FAX 0198-22-6995
E-mail danjo@city.hanamaki.iwate.jp
HP http://www.city.hanamaki.iwate.jp/shsei/

平成20年度 講座に寄せられた声をお届けします

◆◆◆子育て応援講座 いっしょに遊ぼう!! II ◆◆◆

12月7日、パパと小さい子どもはお家で遊べるエアロビクスダンス、ママはリラックスタイム～お顔のスキンケア～という内容で開催しました。

パパ:いつも以上に子どもと触れ合えて良かった、楽しかった!
パパ:冬は室内で遊ぶことが多いので、風船遊びは参考になった。
ママ:パパと子どもの講座はとても良い企画だと思った。なかなかひとりになる機会がないので、良い気分転換になり参加して良かった!

◆◆◆DV防止について考えるセミナー 子どもたちを暴力から守ろう ◆◆◆

12月20日、岩手県立雫石高等学校保健委員会の生徒の皆さんによる保健劇「見えない明日～光と闇の境界線～」の上演と、デートDVファシリテーターの植田朱美さんによる講演を行いました。

■デートDVは特別なことだと思っていましたが、普通の高校生でも身近に起こることかもしれないと感じました。高校生の子どもを持つ親として、子どもにも伝え、考えていかなければならないと思いました。
■他人事ではなくとても心に響きました。もし、身近にデートDVに関係する人がいたらどうすればいいか、考えながら見ることができました。交際することは簡単なことじゃないんだと知らされました。演劇はとても迫力がありました。

●We(ウィー)への意見・感想などをお寄せください。

編集 男女共同参画情報紙編集委員(50音順)
(小原史湖、川端淑子、瀬川とも子、高橋奏恵、穂高マツヨ、若菜多摩英)
表紙イラスト 大越 佳代子



— 特 集 —

絵本・マンガ・雑誌に つくられていく子どもたち ～自分を大切にできる子どもに育てましょう～

vol.6 平成21年 4月
はなまき



大迫地域の「宿場の雛まつり」～メイン会場の準備作業をするボランティアスタッフ～
(平成21年2月16日撮影)



大迫地域の「宿場の雛まつり」は、早春の花巻市を華やかに彩る風物詩で、毎年1万人以上の人が出でにぎわいます。その開催を間近に控えた2月、準備作業中の会場を訪ねました。このイベントを支えるボランティア活動は、平成12年に始まりましたが、会則も代表者もなく、世話人的な立場の方が何人かいるだけという、とてもシンプルな形で続いています。「自然発生的に始まったものだから……堅苦しくないから続けられるのかな?」と話す笑顔が爽やかです。

そんなオープンな活動ですから、ボランティアスタッフが固定化することもなく、毎年メンバーの入れ替わりがあり、特に今年は、大工さんがいるので、段組みづくりがスムーズに進むと喜んでいました。

雛まつりは女性中心のお祭りのように思われますが、「宿場の雛まつり」は、段組みづくりや蔵から人形を出す作業、さらには家の留守番を引き受け、ボランティア活動に女性が気持ちよく出かけられる環境をつくるなど男性の力も大きいとのこと。また、大人だけではなく子どもたちもお茶運びなど、おもてなしに活躍しています。

「雛まつりの季節は、街中がウキウキするのよ!」と話すボランティアスタッフの瞳は、キラキラと輝いていました。

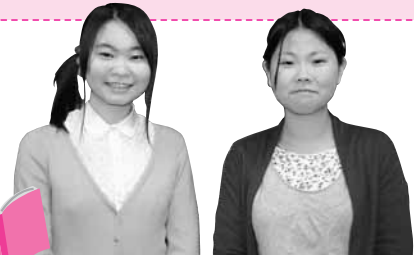
Weは英語で「私たち」という意味。男女共同参画を「私たちみんなで考え、みんなですすめていきたい」と願って名づけました。



絵本・マンガ・雑誌に つくられていく子どもたち

～自分を大切にできる子どもに育てましょう～

子どもたちの周りにあふれている絵本・マンガ・雑誌……。
その中にどんなことが描かれ、子どもたちはそれをどんな思いで読み、どんな影響を受けているのでしょう。
子どもとメディア（絵本・マンガ・雑誌）にはどのような関係があるのか、大人必見の内容です。
— 知ってビックリ！“子どもたちの世界” —



絵本のチ・カ・ラ

岩手大学ジェンダー研究会
阿部末華さん(左)／土川育美さん(右)

●驚きの「おやゆび姫」パワー

ある日、知人の子育て中のご夫妻から「おやゆび姫を読んだ娘が突然『結婚しなくちゃ…、だって、結婚しないと幸せになれないんだもの』と言ったのでびっくりした。」という話を聞き、改めて絵本が子どもに与える影響の大きさを感じました。

「女／男はこうでなければならない」という型にはまった考え方は、行動範囲を狭くし、個性を伸ばす力を弱めると言われています。また、そのような考え方は、家族や周りの人たちの言動からだけではなく、繰り返し読む絵本によっても小さいときから少しずつ身につき、なかなか変えられないのではないとも言われています。

それで、知人の話を聞いた私たちは「幼児期にどんな絵本を与えるか」は本当に大事なことで、改めて感じました。

●絵本の中の「男の子」「女の子」

これまでに出版されている絵本、特に古典的名作といわれている多くの絵本では、女の子は「静かで家事の手伝いや一人遊びをするもの」、男の子は「個性的で色々な冒険を経験するもの」として描かれていることがわかっています。

そこで私たちは、盛岡市立図書館と岩手県立図書館にある絵本をすべて調べてみましたが、「女／男はこうでなければならない」という固定化されたイメージにとらわれない、自由な発想で描かれた絵本を何冊か見つけることができました。

●いろんな絵本を読んでみませんか！

このように、絵本における女の子と男の子の描かれ方には、違いがあることを知ってほしいと私たちは思っています。子どもたちが色々な考え方や生き方を受け入れることができるようになるためには、「女の子」「男の子」ととらわれない、自由な発想で描かれた絵本を選ぶことも大切ではないでしょうか。どうぞ、私たちが見つけた絵本も手にとってみてください。

◆岩手大学ジェンダー研究会
「ジェンダー理論をより深く学んでみたい」という学生の声により2007年2月発足。
絵本を調べ、その結果を基に20年度の岩手県男女共同参画フェスティバルにおいてワークショップ「世界で一つだけの華—絵本から考える子育て—」を企画、開催した。

※ジェンダー：「女／男はこうあるべき」という、社会的、文化的な性差。

自由な発想で描かれた絵本

お二人が見つけた絵本の中から、花巻市立図書館やまなび学園内のこども図書室でも借りることができるものをご紹介します。

●『**ゆうかんなアイリーン**』（セーラー出版）
雪にも負けず、風にも負けず、お使いを達成しようとする強くて優しい女の子の話。女の子の負けん気の強さを個性としてお母さんが大切に守り育てています。

●『**サンタクロースはおばあさん**』（フレーベル館）
神様の出したサンタクロース募集の張り紙を見て集まった沢山のおじいさんたちの中に一人だけおばあさんが。サンタクロースになったおばあさんの向かった先は？

●『**おんなのこだから**』（岩崎書店）
女の子なんだから、お掃除・洗濯・食事のしたくをするのは当たり前？男の子なら泣いちゃダメ？小さな感動をくれる物語。

●『**ママがおうちに帰ってくる**』（講談社）
働くお母さんと家事をするお父さんのお話。男の子たちはお父さんのお手伝いをしています。

●『**アイラのおとまり**』（徳間書店）
友だちの家に初めてお泊まりに行くことになった男の子アイラ。いつも一緒に寝ているクマさんを持っていこうかな…、でも友だちに笑われたらどうしよう…。みんなのもつ不安にそっと手をさしのべてくれる一冊です。

●『**せかいいち大きな女の子のものがたり**』（富山房）
巨大な女の子アンジェリカが、屈強な男たちの誰もが倒すことが出来なかった大熊をやっつけてしまうという、痛快なお話。

子どもたちの個性を伸ばしていくためには、情報を鵜呑みにするのではなく、「本当にそうなのかな？」と立ち止まって考えてみるのが大切だと思っています。私は、子どもと一緒に絵本を読む時に “おかしいな”と感じたところは、意図的に「何でやねん!!」と突っ込みを入れています。これは、子どもだけではなく大人にとっても、「活字になっていることがすべて真実とは限らない」ということに気づく良いトレーニングになり、価値判断を他人（情報）に依存するのではなく、自分自身で行えるようになります。

今の子どもたちは、自分自身を大切にす

柔らかい木は折れにくい

岩手大学
人文社会学部准教授
ジェンダー研究会顧問
海妻径子さん

に失敗や他人と違ってしまふことを恐れたり、「どうせ自分なんて…」と自信を持てずにいるように見えます。私は、大人が周り

の情報に左右されない価値観を持ち、子どもたちに「あなたは、あなたのままで十分にステキよ」「どんなあなたでも、私はあなたが大好きよ」とメッセージを伝え続けることで、子どもたちは自己肯定感を持てるようになると思っています。

そして、そういう子どもたちは、たとえ1つのことに失敗したとしても他の可能性に目を向けることができますし、自分と異なる考え方や生き方を受け入れて、「そういう考え方もあるな」と思えるようになるのです。そういった柔軟な考え方を持つことは、「生きやすさ」につながります。“柔らかい木は折れにくい” と言えますよね。

大人が知らない、 マンガ・雑誌の世界

二戸教育事務所社会教育主事 大森健一さん

教育者として、また中学生の子どもを持つ親として、子どもを取り巻くマンガや雑誌の現状を調査されている大森健一さんにお話を伺いました。

●「男は強く」「女はカワイイ」が一番大事？

子どもたちの周りにはマンガや雑誌があふれていて、普段からそれらを読んでいる子どもはとても多いという調査結果が出ています(表1)。そこで、小学生から高校生によく読まれているマンガや雑誌にどんなことが書かれているのかを調べてみました(表2)。

男の子がよく読んでいるマンガや雑誌には、「強い者を認め、気に入らない者は排除する」「自分(男)が嬉しいなら相手(女)も嬉しいに決まっている」などの表現があり、ここから「他人との関係で重要なのは強さ。コミュニケーションは必要ない」という考えが見えてきます。

また、女の子が読むマンガや雑誌には、「勉強が出来るだけではだめ」「カワイイことが何より大事」という表現が何度も繰り返し出てくるのです。

こういったマンガや雑誌を読み続けていくうちに、「男は強くなってはならない。女は可愛く、モテることが大事で、カレがいないと価値がない」という考え方が、子どもたちの中で自然と出来上がっていくのではないのでしょうか。

●自分がキラいな女の子たち

子どもたちがマンガや雑誌に描かれていることをそのまま受け入れてしまうのは、自分自身でいいのだ、自分が好きだという「自己肯定感」が低いことが原因ではないかと私は考えています。

特に心配なのは女の子です。女の子は男の子に比べ「自分が嫌い」と思っている割合が高いことがわかっています(表3)。それは「イジメや仲間はずれが怖いから、自分の個性を隠して周りに気を遣う。そんな自分がキラい」だと思っているからです。そういう女の子たちは、周りに対してどうふるまえばいいかわからず、雑誌などに描かれている女の子のイメージに合わせようとするのかも知れませんね。

また、このような女の子たちは、モテるために男の子に取り入ったり、最悪の場合は、カレに嫌われることを恐れて“デートDV”といわれる恋人間の暴力の被害者になってしまう危険も考えられます。

●日本の子どもは「自分を大切に」できない？

日本の子どもは欧米の子どもと比べて、自己肯定感が低いと言われています(表4)。日本では、欧米に比べ、自己肯定感を持つのに重要と言われる親子のスキンシップや、「愛しているよ、大好きだよ」という言葉をもらう機

会が少ないからではないでしょうか。

これは、親自身がスキンシップの少ない環境で育ってきていることが多いので、子どもに対する愛情を言葉や態度でどう表現したらいいかわからないからだと思います。

まわりとの比較で評価する日本の文化にも、親も子どもも自己肯定感を持ちにくい原因があるかも知れませんね。

●おススメ“親スタイル”

子どもにどう接したらいいか、悩んでいる親は多いと思います。こんな“親スタイル”を試してみてもはどうでしょうか。

1.見て、読んで、知りましょう。

子どもがどんなものを読んでいるのか、親が自分自身の目で確かめてみましょう。会話のキッカケにもなりますよ。

2.「あなたが大好き!」

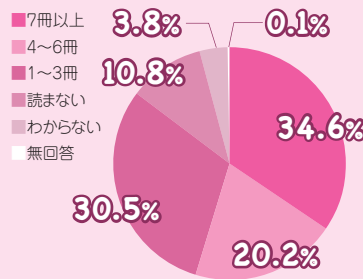
子どもが話しかけてきたら、そのチャンスをしっかり受け止め、耳を傾けましょう。そして、親は「あなたが大好きよ」という気持ちを言葉にして、繰り返し伝えましょう。

3・親も自分を大切に

親も他人の目を気にするのではなく、自分自身の考え、価値観を大切にしましょう。

親子で話しをすることは、とても大切だと思います。私の体験からいえば、「さあ話そう」と構えるより、クラブの送り迎えの車の中など、何かしながら話した方が、会話が続くようです。何気ない会話から、子どもを知るキッカケが見つかるかも知れませんよ。

表1 ひと月に何冊マンガを読みますか



岩手県学校教育調査[調査対象:小・中学生、高校生](2004)

表3 自分のことが好きですか

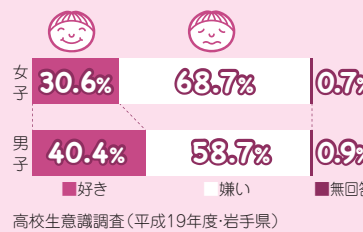
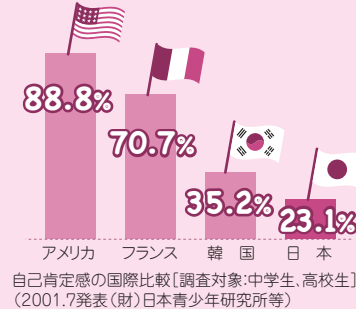


表2 子どもによく読まれているマンガ・雑誌分析

	A誌 (マンガ・男)	B誌 (マンガ・男)	C誌 (マンガ・女)	D誌 (マンガ・女)	E誌 (雑誌・女)
読者層	小学校低学年	小学校高学年～一般	小学生	小学校高学年～中学生	小学校高学年～中学生
「気に入る(一部抜粋)等」	「殴るだけだから」「キモくてウザイ」「もう消えろ」	死者を服従させる ※死者は裏切らない ⇨人は裏切る 「オレが喜んでるんだ。コイツもううれしいさ!」	「勉強しかとリえのないブス!」	「そんなんじゃ、一生カシシできない〜!」 「恋人できなかったら校則違反だぞ」	<記事タイトル> ○あの手この手で恋の課外活動! ○男心を手玉にとれる!

大森健一さん資料より

表4 自分に満足している



自己肯定感の国際比較[調査対象:中学生、高校生] (2001.7発表(財)日本青少年研究所等)

取材後記

多くの子どもたちが「絵本」「マンガ」「雑誌」を読み続けているうちに、「男の子はこうあるべき、女の子はこうあるべき」というイメージを無意識に持つようになることがわかりました。

また、その根っこには「自己肯定感の低さ」という問題があることもわかりました。

自己肯定感が低い子どもは、メディアからの情報を疑問を持たずに受け入れてしまうというお話に、親として大人として深く考えさせられました。

今回の特集に関して、皆さんからご意見をいただければと思っています。